平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム 杜の家 自遊舎

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0372400069		
法人名	社会福祉法人マキバの会		
事業所名	グループ・ホーム 杜の家 自遊舎		
所在地	岩手県和賀郡西和賀町沢内字貝沢４－９８－３		
自己評価作成日	平成 29年 11月 12日	評価結果市町村受理日	平成30年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0372400069-00&PrefCd=03&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020－0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 11 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

本人と家族が寄り添える関係を取り戻し、在宅復帰に向けた支援をしていく。
そのために必要な介護技術を家族と共に学んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

全職員が、日々の申送りやスタッフ会議等を通じて、「自然な笑顔を創りだし、最期まで変わらぬ暮らし」とする理念を心に刻みながら、「利用者そして家族にとって必要なサービスやケアが提供できているか」を常に振り返りながら、ケアに取り組んでいる。職員一丸となった終末期・看取りへの親身な対応によって、家族から大きな信頼を得ている。日々利用者本位を追及するなか、職員と馴染みの関係・支えあいの関係がしっかりと築かれ、利用者は、安全で安心、明るく楽しく穏やかな生活を送っている。
今後は、利用者の状態や環境等を見極めながら、在宅復帰を目指し、利用者と家族の繋がりも深めながら、職員の介護技術の向上に努めることとしている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

平成　29　年度

2　自己評価および外部評価結果

事業所名　：　グループホーム　杜の家　自遊舎

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然な笑顔を創り出し最後まで変わらぬ暮らしを」この言葉を理念に掲げ最も必要とされているサービスを日々の実践につなげている	理念の下に、職員ｽﾛｰｶﾞﾝ（信頼されるスタッフ）を掲げ、利用者それぞれにとって必要とされるサービスは何かなどについて、申送りやスタッフ会議、カンファレンスにおいて、理念・スローガンに沿った介護について、皆で話し合い共有しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練や敬老会への参加など年に数回の交流がある。収穫祭では利用者が招かれ楽しい時間を過ごした	周囲に民家が少なく、普段の往来が少ない環境にあって、事業所・利用者は地域の敬老会や近隣の保育所に出かけて交流しているほか、事業所主催の納涼祭やクリスマス会には、家族のほか地域にも参加を呼びかけ、交流の広まりに心を配っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で介護研修を開催したり家族や地域住民を対象として認知症についての相談を受け付けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況や利用状況、施設内での様子を会議で報告し話し合っている　意見は事業所の運営に生かされている	家族も委員として参加し、サービスやケアについても意見が多く出されている。とりわけヒヤリハット事例、水害等自然災害、福祉車両寄贈、避難訓練内容等について、活発に意見交換がなされ、今後の事業所運営に役立てられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者は運営推進会議の委員でもあるので事業所内の実情や取り組みは常に報告している町主催の研修会や会議に積極的に参加し交流を図っている	町の担当職員とは、普段から電話やメールで連絡や相談しあっており、運営推進会議や各種会議等では直接会って情報交換等を行っている。事業所現場が直面する課題の研修開催等について、提案していきたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠はしておらず、自由に出入りできる　代替法がなくやむおえない場合は家族に経緯を説明し承諾書にサインをいただいている　必要がなくなったときは速やかに解除している	内外の研修やとりわけスピーチロックについては、お互いが注意しあって拘束の無い、起こらないケアに心一つに取組んでいる。介護衣の着用については、これからも解決法を摸索する中、家族説明と記録をしっかり小まめに行うこととしている。	

［評価機関　：　特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会］

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用者の思いに共感し、身体・言葉での虐待に至らないように職員同士お互いに注意しあい都度話し合いの場を持っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や貢献制度の研修会には積極的に参加しているが、現在該当者がいないため実践していない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や法改定の際は十分な説明を行い納得・理解して頂いたうえで、サイン、押印を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一昨年、昨年と家族アンケートを実施している　昨年は家族がより意見を述べやすいようにアンケートを具体的なものに変更した　要望は真摯に受け止め運営に反映させている	事業所のイベントや随時の面会、通院時の立ち寄りの際などに、家族と話す時間を見つけて意見等を得るように努めている。アンケートも継続実施している。今後、職員からのお手紙や広報を工夫しながら、話題の広がりにつなげたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回スタッフ会議を開催し運営や介護のことなどさまざまな意見に耳を傾けている 急を要する場合は随時開催し職務に反映させている	事業所の理念について、スタッフ会議で共有しながら、利用者にとって必要なサービスやケアについて、普段から話し合っている。スタッフ会議出席の伴う超勤手当ての支給について提案があり、運営者とも協議をしながら、その実施につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞きながら、より快適に働けるように職員専用のシャワー室を完備した		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員が不足しているため余裕がなく発表会の参加を辞退せざるをえなかった		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	下期で交換研修を予定している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの聞き取りやアセスメントは十分に行い本人の思いに寄り添ったサービスを心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を受け入れ関係を深めるように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他機関や他職種と連携を図りながら本人や家族が最も必要としているサービスを見極め支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する仲間としてお互いに支えあい必要とされる関係になれるように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の悩みや相談には真摯に耳を傾けている　専門用語は使わず対等の立場で本人を支えていくという姿勢を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や思い出の場所に行きたい時はドライブがてらで掛けている　電話や手紙など本人からの希望があれば都度対応している	年々、馴染みの関係が薄れてゆく中、それぞれの馴染みの人や場について、職員が利用者や家族から聞き取りながら、支援に努めている。二人の息子さんが交替で訪問してくれたり、定期的に姪御さんがお泊まり訪問してくれる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を把握し関係が悪化しないような環境作りや仲介に入りトラブルを未然に防ぐ努力をしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設やケアマネとの情報交換に努め、地域の認知症高齢者のサポート役として相談を受け付けている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに寄り添いながら個人の様子を観察し、本人の意向にあっているか、常に検討している	理念にある「最後まで変わらぬ暮らし」について、日頃の寄り添いを通じ、思いや願いについて、常に本人本位の自由な暮らしを基本に、実践に努めている。気づきについては、申送り帳に記録しながら職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本が好きだった人の部屋には本棚をおいたり、仏壇を持ち込んだりと以前の生活環境が確保できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の負担にならないような、声掛けや軽作業など状態に合わせた日常を支援している		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ADLが変化した際にはサービス担当者会議を開催し検討しながらケアプランに反映させている	介護レベルや状態変化時には、弾力的にプラン見直しを行うほか、定期的には6ヶ月ごとにモニタリングを行い、皆でｱｲﾃﾞｱを出し合い、利用者にとって必要なサービスやケアを盛り込む、全職員が一丸となってつくるプランとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一週間をひとまとめとして、生活状況や排泄リズム、水分摂取状況など一目で分かるように、支援経過を充実させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望があったり、ADLがレベルアップした利用者に対しては、家族に説明ながら短時間でも外出や外泊ができるように働きかけている		

［評価機関　：　特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会］

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	山菜採りや薪運びなど以前の生活のなかで馴染みがあることを一緒に行い、知恵をだしてもらいながら本人の暮らしがより楽しみなものになるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する病院をかかりつけ医とし、定期的な受診の他に、緊急時も対応できるように連携をとっている	かりつけ医に通院したり、訪問診療により受診している。週一回の訪問看護師によって日常の健康管理が行なわれている。終末期や看取りについての関係を含め、かかりつけ医や看護師との関係は適切に確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を支援経過に記録し、訪問看護日に相談し助言をあおいでいる　緊急時も対応できるように連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーを活用し利用者に関わる全ての職種と同じ情報を共有できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時やケアプラン作成時に今後の方針として家族や本人の意向を確認するとともに、急変に備えた話合いを定期的に行っている	「看取り指針」を作成し利用者や家族としっかり話し合い、利用者の最期について、後悔の無い最善の対応を目指している。今後は看取り介護中の利用者と家族が触れ合う時間を少しでも多くしていきたいとしている。	利用者を事業所に任せ切りにならないよう、とりわけ終末期（看取り）に際しては、普段から家族等との連携を密にして、寄り添いの機会を増やしてもらうなど、一層の働きかけを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内の救急マニュアルを熟知するとともに、ヒアリハット報告書を作成し、改善点がないか話し合っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練（日中・夜間）と災害時持ち出し物品を準備し災害に備えている　地域の住民も交え協力体制も整っている	地域の防災訓練を含めて数回の訓練を実施している。火災や水害、地震、夜間の想定など多様に設定し、いざという時に備えている。周辺に住民が少ない環境の中、非常災害通報先を近隣住民にも依頼するなどの協力体制が出来ている。	

［評価機関　：　特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会］

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				出来ている	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格を把握し、その時々に応じて人格を尊重しながら、その人らしさを大切にした支援を行っている	利用者それぞれに、本人の気持ちに沿った声がけ・呼び方を心がけている。利用者がしたいことや嫌いなことなどを把握しながら、本人本位に努めている。トイレ誘導・介助、入浴介助に際しては優しく近くで小声を徹底して実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通じて信頼関係を構築し本人が自分の思いや希望を表現できるように導いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	～しませんか？と質問系で接し、本人の希望を最優先した支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自分で選べるように支援している　特に外出時には職員と相談しながら選んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や盛り付けなど、生活の中で何かしらの役割を持つことにより、本人の気持ちが食べることへの楽しみに繋がるように支援している	献立は、冷蔵庫にある物やお裾分け、菜園収穫の季節の野菜を工夫しながら職員が作っている。利用者は食材の下処理など出来ること好きなことに参加して楽しみながら作り食べている。おやつにはﾎｯﾄｹｰｷなどを、一緒に作って楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検食日誌に残食や水分摂取量を記入し状態の把握に努めている　好みや苦手なものなどを考慮しながらバランスの摂れた食生活になるように支援している　水分は特に好みを重視し摂取しやすいように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの状態や能力に応じたケアを実施している　出来るところは自分で行い、継続出来るように支援している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情や行動を観察し、トイレでの排泄が可能になった方は便秘が治り、じょくそうも軽減した	介護用品を着けている方、着けていない方それぞれであるが、職員の適切なトイレ誘導により、全員がトイレでの排泄となっている。入所後職員の熱心な取り組みによって、排泄自立に繋げた取り組みは注目に値する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便観察表で状態をチェックし、水分量の把握や個々に応じた飲食物の提供で自然な排便が促されるように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回の入浴日を設け個人の体調やタイミングに合わせてゆったりと入浴できるように支援している	週2回（午前・午後）を目安に入浴し、入浴が嫌いな方には無理強いせず、その気になるまで待ったり、清拭や足浴で対応している。一人で外の自然豊かな景色を眺めたり、職員と話し込んでいる。同性のほか相性の合う介助に配慮工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムを尊重しながら室内環境を整え、安眠できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の投薬状況を把握し医療機関との連携を蜜に行い、病状の変化に対応できるように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話や家族からの情報をもとに、一人ひとりにあった楽しみごとや役割を日常に取り入れ、生活にハリが持てるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、ドライブなどの外出の他に、家族と協力し定期的に帰宅するなど本人の希望に添った支援をしている	普段は、周辺散歩や外で体を動かしている。家族の協力も得て、買い物や花見や収穫祭などドライブなどへ出かけ、気分転換につなげている。事業所の畑での野菜づくりにも参加しながら、生活のリズムづくり、楽しみにつなげている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持、利用できる利用者は買い物デーを利用し自分の意思で使うことが出来る　夏祭りの出店などお金を使う機会を設け、楽しみが持てるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしたり、家族との手紙のやり取りを支援し関係作りに努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は大きな足音や物音を立てないように努めている　季節を感じられるような生け花や飾り付けを一緒に行い、心地よい居住空間を提供している	わが家を思わせる木造造りの家には薪ストーブが置かれ、それを囲むように利用者の居場所が確保されている。壁にはイベントの写真や手づくりの作品が飾られている。整理整頓、清掃は毎日行なわれ、トイレ臭等不快な臭いは勿論ない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で部屋に居る人、テレビを観ている人、ソファーでくつろぐ人、洗濯畳などの仕事をしたい人など、それぞれのペースで暮らしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	読書が好きだったという家族からの情報をもとに自室の一角に読書コーナーを設置したところ、不穏が和らぎ笑顔が多くなった	ベッドやタンスのほか、鏡やカレンダー、位牌や座椅子など馴染みのモノを持ち込んで、置いたり飾ったりして、自分の部屋としている。衣料品は、タンスなどに整理され、居室は綺麗で広く感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な箇所がないように環境を整備している　特に自室内はスムーズな動線を確保し「できること」「わかること」が継続して行えるように支援している		